

## “神様・仏様”



1月18日(水)より美術ロフトで“神様・仏様”の展示会が行われました。鎌倉時代のもので最大の版画と思われる当麻寺(たいまでら)の仏様や、三輪神社の乱版不動明王の版画など、作品は約百点。その中に、違う版画なのにどこか似ている七福神の作品がありました。解説を担当していただいた吉田さんは「たぶん初めは同じ版だったと思います。何回も繰り返し刷っているうちに原板が擦り切れ、そこに手を加えては刷るという作業を何回も経た末、少しずつ違うものになっていったのです」と語りました。又その過程でさえも、信仰しながら心を込めた人の気持ちが

伝わってきて、作品から温かいものを感じました。「一つひとつの作品には解説文はあえて付けていません。自分の感性を大切にしてほしい。原板に近い線のはっきりしたものがいいとは限りません。擦り切れても良いものは心に訴えかけてくるものです」と熱く語ります。屋根裏から出てきた版画や菩薩様の中から出てきたお経の紙片、アフリカで信仰されていた神様像も数多くあり、会場内のかたは「私はこれに心をひかれてしまうの」「擦り切れた版の作品のほうが味があるね」「信仰の深さが原板を大切にしていると思います」など話してくれました。なぜか、皆さんの顔が穏やかになっているような気がしました。大きな会場ではゆっくり見られないけれど、アールでは心ゆくまで観賞できる、それがとても贅沢なことだと思いました。今回は約600名の方が神様・仏様に出会えました。次回企画が楽しみです



# 岩崎祐司の世界 パロディー笑・刻展

3月3日～11日美術ロフトにて笑・刻展が開催された。かの坂本龍馬が映画『ローマの休日』でオードリー・ヘップバーンを乗せたと思しきスクーターに跨っている代表作の木彫り『ローマの休日』他、新作を加え128点が展示され、会場は“おもわず吹き出す笑・刻の世界”満載であった。来場者は「だじゃれ、大好き！笑いにはまってしまう。でも、初期の仏像の作品も見てみたいですね」とご夫婦、「これって、題が面白い！」『はなさんかじじい』を指して笑う小学生、「酒好きにはたまりませんね」『上を向いてアルコール』を見ていた男性、笑いのツボは人それぞれの様子である。土・日の開催日に、来場者と制作者のトークタイムが設けられた。その中で制作者の岩崎氏は、「この頃、レイがオリテくるのが見えるんです」とみんなを驚かせ、「実は昨年、高齢者（降霊者）になりましたから」と笑わせる気さくな人。パロディについては一瞬のヒラメキをいつもメモで



ローマの休日

書き溜めており、作品の題を決めたら角材に正面図を描き、コンピューターだけの一刀彫でバランスを見ながら彫るのだそう。自営業の合間に手直しをしながら彫り進め、ひとつの作品にかける日数は3～4日、大作になると1ヶ月以上かけると話された。初期の作品の仏像からパロディーに転じたのは、「友だちに受けたから」で、家族は心配しないか？には「今日も娘が手伝いに来てくれています」と話される様子に、パロディー笑・刻の世界がまだまだ広がっていきそうな気配を感じた。作品の中には同じ題で意味が違うものも見られた。例えば『そんなバナナ！？』『損なバナナ』や『サイは投げられた』『サイはなめられた』などはパロディの進化なのかと尋ねると、

「新作でサイを舐めているのはムツゴローさんです」動物を舐めるムツゴローさん自体が笑いなのですね。言葉の面白さに気を取られて作品を良く見ていないのに気づき、後に改めて作品の見直しを行ったことは言うまでもありません。その他にも『タイがまっすぐ』は昨年の春、多くの施設に送られたランドセルの贈り主“タイガーマスク”と、時事のパロディも入る。これからは作品を観察しつつ、この題は作者がどんな時に閃いたのだろうかと探りながら見て行くと、もっと味わい深く面白くなりそう。約2,300人の来場者も楽しまれたことと思う。



そんなバナナ



サイはなめられた



タイがまっすぐ



はなさんかじじい





## 「ala ボランティア講習会・変えてゆくことを楽しむ でもクルーズ設立の基本に立ち返ろう」



2月19日(日)よく晴れた日、2階ワークショップ洋室にて午後1時半から4時半まで、大阪ボランティア協会の永井美佳さんによる「alaボランティア講習会・変えてゆくことを楽しむ」が行われた。財団からは2名、alaクルーズは17名の参加があった。今回で3回目となる永井さんの話は自己紹介から始まった。「大阪から来ました。21年間、毎日ボランティアの世界に入ってやっています」とのっけからパワフル。ホワイトボードに本日の“ワーク①”クルーズの自主企画 一押しの企画はコレ!! 事業の内容、運営の仕方、何でもOK “ワーク②”クルーズの事業を貫く共通コンセプトをことばにしよう “ワーク③”クルーズの事業、さらなる進化に向けて意見交換、相手の立場に立つこと、が書き出された。「ボランティアをしていることを話したときの周りの反応は？」との問いかけに「物好きだね」とか「引かれてしまう」などの答えに、会場の一同大爆笑。「『とても私にはできません!』と言われたりする」という声があがった。一瞬、座が和んだ。本日のタイトルからして緊張していたのだろう。あらかじめテーブルに用意された画用紙、わら半紙、マジックインクがこれから始まるワークショップをもの語っていた。参加者は3つのグループに分かれ現在alaクルーズが行っている9つの事業について三大魅力を考えて発表。ワイワイ、ガヤガヤ楽しそうな雰囲気。魅力を考えている内に心の中があつまってきた。そして3つにまとめるのが難しいほど、たくさん意見が出た。ワークが進む中、事業は次の3つに分類された。「企画」・「スキルアップ」・「PR」。ここで効果的にalaクルーズの紹介パワーポイントがスクリーンに映し出された。そこには三つの事業活動のカテゴリーがあった。即ち「通年事業」・「提案等事業」・「会員への事業」である。「表現の仕方を見直していくといい。そして、もし10代の人が入ってきたらという発想もある」と永井さん。こんなところにも変わるヒントがあることに驚かされた。次のワークではalaクルーズの事業で大事にしたいことを出し合った。「参加・つながり」が最も支持が多く「新しい価値」や「独自性」も注目を集めた。自己評価の指標につながるワークだ。まとめでは、「課題とは変えてゆくこと。変えてゆくことを楽しむ。現場にはヒントがある」などという言葉とともに発想法も教えていただいた。研修会の後、別室にて永井さんを囲んで茶話会がもたれ、雑談からはじまって若い方へのアプローチ法まで語っていただいた。永井さんは市民活動が好きで好きでたまらないというエネルギーの固まりだった。参加者からは、「良かった」「ala組織検討委員会が終わって、新しいクルーズになった今、ピッタリの研修だった」「大事なことが確認できた」などの感想が寄せられた。次の4回目の研修が楽しみだ。





# ◆ ◆ アーラ開館10周年記念事業 ◆ ◆ = 市民手作りタイル事業 =

可児市文化創造センター(アーラ)の歩道に、市民の皆さんがオープン時デザインした記念のレンガが埋めこまれています。ご存じでしょうか？平成24年7月には、アーラが開館して10年目を迎えます。そこで、この記念となる今年、第4回目の市民参加による「手作りタイル」の制作に参加する方を募集いたします。

## あなたのデザインした線画のタイルを、アーラに残してみませんか？

今回は材料が、レンガからタイルに変更となり写真は異なります

実施 平成24年6月3日(日)午前8時30分～午後6時

制作場所 ニッタイ工業株式会社(姫ヶ丘・可児工業団地)

参加費 1,000円/タイル1枚(材料代)

募集人員 250名(応募者多数の場合は抽選とします)

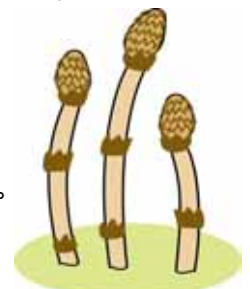
応募規定 申込は一人1枚、一家族2枚までとし、可児市内在住の方に限ります

申込方法 往復ハガキに参加者の住所、氏名、性別年齢電話番号を記入の上  
〒509-0203 可児市下恵土3433番139 可児市文化創造センターまで  
応募ハガキ1枚に参加者1名を記入してください(多数記入の場合は無効)

申込締切 平成24年4月11日(水)(当日消印有効)

問合せ先 可児市文化創造センター 手づくりタイル係  
電話 60-3311(火曜日休館日)

その他 お申しいただいた皆様には、5月初旬ごろご通知を送いたします。  
タイルを制作していただく時間は、主催者が指定させていただきます。



- 【主催】 NPO法人alaクルーズ  
(公財)可児市文化芸術振興財団  
【協力】 ニッタイ工業株式会社



## 編集後記

皆さんがこの広報紙を手にする頃は桜も満開になっていることでしょう。桜は、入学、卒業、就職と様々な人生の節目と重なりあい、そうした人生の断片を思い出す人も、多いのではないのでしょうか。それが、桜を一層美しく、感じさせるように思います。今年はalaクルーズにとって新たな出発の年になりました。10年を経て、新生したクルーズの未来に大きく期待をしたいと思います。最後に、私ごとですが今年度で理事を退任することになりました。これからは一会員として今後の発展を見守っていきたいと思っています。永い間お世話になり、ありがとうございました。(O)



## 総会のお知らせ

平成24年度通常総会

平成24年5月19日(土)  
午前11時

洋室ワークショップルーム



## alaクルーズ事務局

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139

TEL/FAX 0574-61-3414

URL <http://www.kpac.or.jp/alacrews/>

Email [ala-crews@kpac.or.jp](mailto:ala-crews@kpac.or.jp)